

虎屋京都工場

TORAYA KYOTO PLANT

No. 05-004-2010更新
新築
工場・物流施設

発注者	株式会社 虎屋	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
施工	鹿島建設		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他			

森の中の食品工場

(グッドデザイン賞、第1回建築人賞、日事連建築賞、建築学会作品選集)



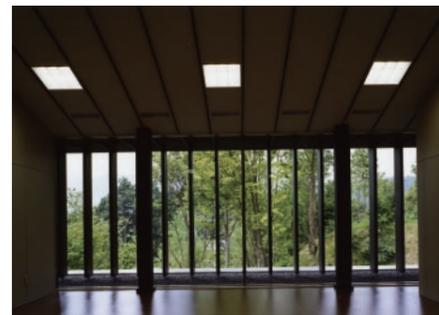
筏森山の山並みと融合した建築

自然と建築の対峙

“森の中の工場”をつくりたい。

日本の歴史と風土に育まれた和菓子の伝統を後世に伝えるため、恵みに包まれた環境。眼前に桂川、背後に筏森山の尾根が連なる京都・丹後の森、を敷地に選んだ。だが最新の食品工場の機能・形態は、自然の中に埋没できるボリュームを超えてしまうため、自然の中に工場を隠すのではなく、自然の雄大さと建築の力強さを対峙させることで、共存を試みた。

管理棟は左右に迫り出る山と山とを繋ぐ「橋」。工場棟は山々へ連続する「橋」の背景として配置した。有機的な自然と幾何学的建築に関係性を与えることで、自然と建築が応答を繰り返し、既存の風景に馴染んでいく。アカマツの縦格子、蔵をイメージした屋根、丹波生野石の石垣、自然の風合を意識した壁。建築の細部に日本の伝統美をあしらうことで、老舗の風格を表現した。食品工場に求められる明確なエリア別け・動線計画、開口部を制限して気密性・防虫性を追求した基本性能を満足させている。



管理棟：室内よりアカマツの縦格子を望む

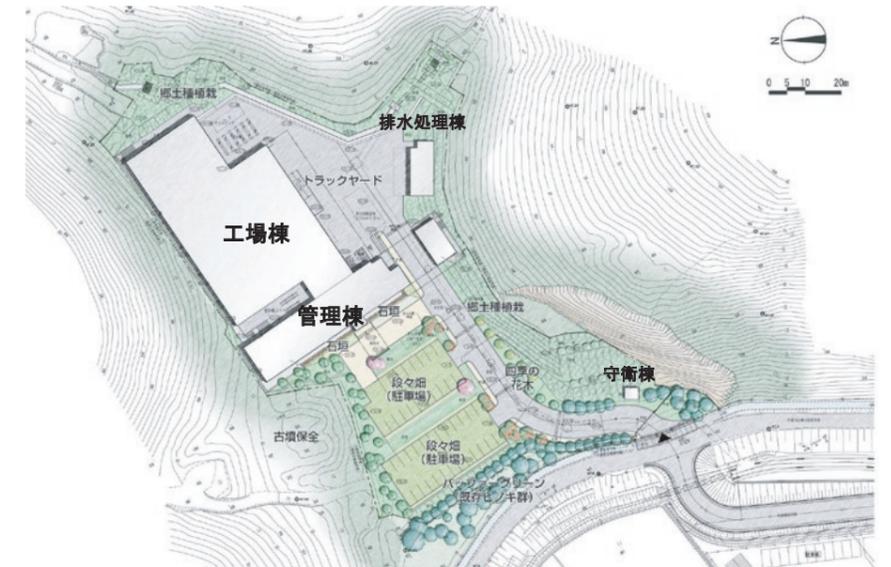
自然と対応する建築・設備

勾配屋根、「木」の縦格子、地域材料の石垣という「和」を想起させる建築と調和させるため、

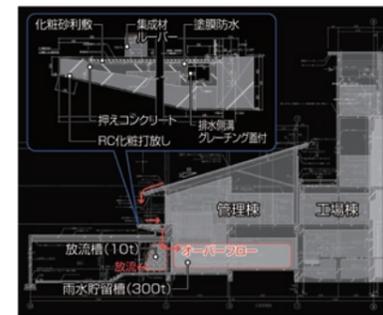
- ①段々畑をイメージした緑の駐車場
- ②四季の花・食材の花木植栽による里山の風景再現
- ③出土した古墳、現存するヒノキ林の保存
- ④軒の深さ、アカマツルーバーによる日射遮蔽
- ⑤掘削土の敷地内利用、雨水排水抑制設備の採用などを計画に盛り込み、環境保全に努めた。これらのことで、時間とともにさらに広域の自然との共生につながることを意図している。

機能性をデザインする

勾配屋根とバルコニー・縦格子で構成された軒下空間は光と影により時間の流れを刻み、四季の移ろいを室内へ取り入れる“間”としての空間である。その和を想起するデザインは雨水集水・抑制機能を併せもつ。落ち葉対策として長さ60mの軒先には軒樋を設けず、バルコニー全体を軒樋として計画し、化粧砂利の下に設けられた側溝を通して1ヵ所に集水、雨水貯留槽へ放流し、敷地全体の雨水排水抑制を可能にしている。



配置図



雨水集水・抑制機能



管理棟：丹波生野石の石垣



管理棟：内部階段



管理棟：2階ロビー



管理棟：「縁側」を思わせるテラス

設計担当者

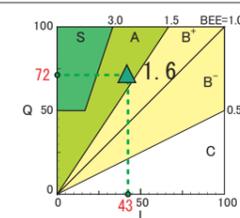
統括：菅野忠司/建築：吉野博史/構造：森崎論志/設備：酒井達也・中田圭介/外構：ランドスケープデザイン 鶴川武史

建物データ

所在地	京都府南丹市
竣工年	2007年
敷地面積	9,773㎡
延床面積	5,460㎡
構造	RC造、S造
階数	地上4階

CASBEE評価

Aランク
BEE=1.6
2006年度版
自己評価



主要な採用技術 (CASBEE準拠)

Q3.1	生物環境の保全と創出	(外構緑化、地域の郷土種への配慮)
Q3.2	まちなみ・景観への配慮	(地域性のある素材、歴史性の継承 (出土古墳の保護))
LR1.1	建物の熱負荷抑制	(庇の深い外装 高気密)
LR1.3	設備システムの高効率化	(LED照明、センサー制御)
LR3.2	地域環境への配慮	(掘削土の敷地内利用、雨水排水抑制設備)
LR3.3	周辺環境への配慮	(自然林の保護、現存するヒノキ林の保存)